



患者とともにある全人的医療

## 院長 年頭のあいさつ

### 「かかりつけ医を持ちましょう」



新潟市民病院院長  
片柳 憲雄

明けましておめでとうございます。久々に雪のない年末年始でしたが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。今年はインフルエンザの流行が遅く、これから心配な時期になりそうです。うがい、手洗いを励行してください。

昨年は西アフリカでのエボラ出血熱に続いての韓国でのMERSの流行と、一類感染症病床をもつ県内唯一の病院として、「備えあれば憂いなし」の気持で感染制御チームと看護師の有志諸君の協力で“その日”のため、準備万端に整えました。感染疑いの連絡などはありませんでしたが、本当の感染患者さんが来院せず「ほっ」としました。現在は、新型インフルエンザの流行に備えています。

がん診療連携拠点病院としましては、外来化学療法法の推進、胃癌、直腸癌、保険適応となった前立腺癌に対する手術支援ロボット da Vinciの利用、さらに、高精度放射線治療の開始など、質の高いがん治療を提供しています。

地域医療支援病院としましては、昨年4月から外来に、患者さんが何でも相談できる患者総合支援センター“スワンプラザ”を作り、運用を開始しました。入院治療の決まった患者さんの入院支援、治療が終わった患者さんの退院支

援、患者さん・そのご家族のがん相談、緩和ケア相談に対応しています。いつでも（月～金の8：30～17：15）ご相談ください。

入院の際は治療の目処が立ちますと早期から退院支援の担当者との相談が始まります。継続したりハビリなどが必要な患者さんには回復期病床がある病院を、自宅退院が可能な患者さんには、かかりつけ医をご紹介します。市民病院の人、モノ、機能を有効に利用していただくためのシステムですので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

国によりますと次年度から市民病院のような大きな病院を受診（初診、再診）する時に紹介状のない患者さんから選定療養費（初診で今までより高額）をいただくことになりそうです。紹介状がないと高額になりますので、皆さんはかかりつけ医（市民病院の医師ではない）からの紹介状持参、かかりつけ医を介しての予約をお勧めします。

新潟市民病院はこれからも「患者とともにある全人的医療」を理念として、重症・専門・救急医療を中心にチーム医療を実践しながら、「患者さんに信頼されるぬくもりのある医療」を目指していきます。新潟市民病院を上手にご利用くださいますよう、お願いします。



# 【放射線治療部門が生まれ変わりました】

放射線治療科 土田恵美子

平成27年11月、治療器の更新に伴い、最新の設備を備えた治療器で高精度放射線治療を行えるようになりました。

従来の治療器では、放射線治療を行う部位の位置合わせは、患者さんの皮膚につけた印と治療器や治療室の壁からのレーザーの光が一致するようにして行っていました。新しい治療器では、患者さんに治療の寝台に寝ていただいた状態で、骨のX線写真またはCT画像を撮影し、これらの画像と治療計画CTから作った画像を重ね合わせ、照射部位のずれを確認します。ボタン一つで治療の寝台の高さや角度・傾きを微調整し、ミリ単位で位置を修正することが可能です。また、治療計画のためのCTを呼吸性移動の分を足して撮影できるようになりました。このCT画像を治療計画に用いれば、呼吸で動く腫瘍については腫瘍を十分含め、かつ正常臓器を余分に含めないようにして治療できます。今までとは違い、定位放射線治療\*<sup>1</sup>や強度変調放射線療法\*<sup>2</sup>を行うこともできる治療器です。

これらの高精度放射線治療を始めるに当たり、検証作業や研修などの準備が必要ですので、まずは頭部の定位照射から開始し、今後少しずつ治療する病気の範囲を広げていく予定です。

治療器の更新や場所の移転に伴い、今までリニアック室（リニアック：直線加速器という治療器の英語表記を省略した呼び方）と呼んでいた診療部署を「放射線治療室」に変更しました。待合いスペースが広くなり、車椅子やベッドでもお越しいただきやすくなりました。更衣室も2室設置しました。



11月下旬からは医師が1名増え、常勤医師2名体制となりました。スタッフ一丸となって、安全で良質な医療を行いたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**\*1 定位放射線治療：**病変部を正確に定め、多方向から放射線を病変に当てることで1回線量を多くし、短期間で大線量を当てる治療

**\*2 強度変調放射線療法：**くぼみのある形の腫瘍に対して腫瘍の形に合致するように放射線を当て、正常組織の副作用を減らすことができる。



# PSAと前立腺癌の関係

泌尿器科 川上芳明

PSAは前立腺癌の腫瘍マーカーで、Prostate Specific Antigenの略語です。日本語訳は**前立腺特異抗原**です。前立腺に癌ができると前立腺の細胞が壊れて血中に放出され、数値が上がる性質があります。この数値が高いほど前立腺癌がある確率が高まります。各自治体が主導して前立腺がん検診の名称で検査が行われています。検診の結果、精密検査を受けたほうが良いと判断する値を基準値とよび、4ng/mLを超えたら精密検査をお勧めする事が一般的です。新潟市の検診では年齢別に基準値を設けています。それは年齢が上がると前立腺癌がなくても数値が上がるからです。新潟市では5年ごとの検診ですので、50、55、60歳で3.0以上、65歳が3.5以上、70、75歳が4.0以上、80歳以上は7.0以上で精密検査が必要と判定しています。この基準値を超えた場合に泌尿器科に精密検査依頼が出されます。

精密検査にはCT検査、MRI検査、超音波検査、前立腺の触診などがあります。しかし、これらの検査は前立腺癌を疑う事はできても、診断を確定することはできません。逆に前立腺癌を疑う所見がないからといって、癌がないとは言いきれません。結局のところ、前立腺癌の診断を確定するためには前立腺の組織検査が必要です。当院では2泊3日の入院、全身麻酔あるいは腰椎麻酔で検査しています。

市民病院での組織検査で、どのくらいの割合で癌が発見されたかを調べてみました。平成23年から平成27年の5年間に延べ1035人に対して組織検査を行いました。(表1)その内488人、47.1%の方が前立腺癌でした。およそ半数の方が癌ということになります。そして当然のことながらPSAの数値が高いと癌の確率は高くなり、また年齢が高くなるほど癌の発見率は高くなっていました。PSAは数ある腫瘍マーカーの中でも、非常に有用性の高いマーカーであることは明らかですが、問題はいくつかあります。その一つが、半分近くで癌がある一方で、半分以上の方で癌がないことです。そこで、前述したレントゲン検査などを参考にして組織検査が本当に必要な方を選ぶ努力をしますが、限界があります。今後、さらに人口の高齢化が進んでいくことを考えると、組織検査の件数も前立腺癌の患者数も右肩上がりに増えていくのは間違いありません。

定期的に検診をうけ、早めに泌尿器科の医師と相談していくことが大切だと思います。



年齢(才)	50~54		55~59		60~64		65~69		70~74		75~79		80~		PSA別 癌発見率
	癌あり	癌なし													
4未満	2	1	5	2	13		5	2	5				1	13.90%	
4~10未満	2	10	9	25	22	50	55	91	38	75	44	54	14	1	37.60%
10~20未満	2	1	1	3	11	20	18	38	30	44	47	35	32	11	48.10%
20以上			2		12	3	29	14	37	19	39	14	39	8	73.10%
年齢別 癌発見率	23.50%		28.30%		35.30%		40.80%		42.80%		55.80%		80.20%		

## 市民病院外来、急患外来に置いてあります。 ご自由にお持ち帰りください

平成27年8月1日 発行



### 上手な新潟市民病院のかかり方



最新版

市民病院は、地域の医療機関で精密検査、手術、入院が必要と判断された患者さんや、救急医療、周産期医療などの重症な患者さんを受け入れる病院です。

#### \* 初診、再診ともに予約が必要です。

以下の方は、初診となります。

- ・市民病院を初めて受診する方
- ・今回受診する診療科が初めての方
- ・6ヶ月以上受診していない方
- ・以前とは別の症状で受診する方

① かかりつけ医を介しての受診予約  
かかりつけ医にご相談ください。

② 電話での事前予約(予約センター)

**025-281-6600** (電話予約専用)

午前8時～午後4時(平日のみ)

③ 総合受付での予約

午前8時～午前11時:当日予約希望の方、  
当日予約変更の方、

**当日予約が取れない場合や午後になる場合も  
あります。電話での事前予約をお勧めします。**

#### \* 具合が悪くなった時…

① 各科外来にお問い合わせ

平日午前9時～予約診療終了まで

② 時間外・休日・夜間に受診する場合

1) 当院へ電話  
「これから受診したい」と伝える。

2) 職員が具合をお聞きします。  
具合を伝えてください。

\*状況により「新潟市急患診療センター」

(電話 025-246-1199)

や、他の医療機関(輪番病院等)をお勧めする事があります。

かぜや腹痛等の軽症にもかかわらず休日・夜間に当院急患外来を受診する方が増えることで、本来当院が診療すべき重症・重とく患者さんへの治療ができなくなる恐れがあります。  
ご協力をお願いします。

次の診療科の初診は、紹介状がないと受診できません。

**整形外科、産科・婦人科、内分泌・代謝内科、耳鼻いんこう科、  
血液内科、腎臓・リウマチ科、緩和ケア内科、心臓血管外科、  
呼吸器外科、泌尿器科、眼科、脳神経内科**です。

なお、血液内科の初診は紹介状の持参に加え、他の医療機関からの予約も必要です。かかりつけ医にご相談ください。

※精神科、心療内科は新規受診は受け付けておりません。

※特定検診、がん検診は行なっていません。

紹介状がない場合は、診療費とは別に2,160円(初診保険外併用療養費)が必要です。

受診の際は、保険証・受給者証・診療券・お薬手帳をお持ち下さい。

①医療福祉相談、②がん相談、③入退院に関する相談は、  
「患者総合支援センター」にお声掛け下さい。  
(正面玄関入って左、10番受付です)

心配事、不安、診療についての疑問等は患者相談室104でお聞きします。  
～ 総合案内へお声掛け下さい ～

外来休診日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



新潟市民病院  
新潟市中央区鐘木463-7

**025-281-5151** (代表)

新潟市民病院長 片柳憲雄

市民病院のホームページもご覧ください

<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

新潟市民病院 広報広聴委員会

〒950-1197 新潟市中央区鐘木463番地7

電話 025 (281) 5151

Fax 025 (281) 5187

### 編集後記

まだまだ寒い日が続きます。

インフルエンザ、ノロウイルスに気をつけて寒い冬を乗り切りましょう。(T.I.)